

馬若瑟(Prémare)『漢語割記(*Notitia Linguae Sinicae*)』第二部訳注(II)

千葉謙悟訳

<凡例>

- ・底本は何群雄編(2002)『初期中国語文法学史研究資料 プレマールの『中国語ノート』』三元社を用いた。これはフランスのパリ国立図書館蔵本(Anglo-Chinese College 1831)の影印本である。
- ・本文中に用いられた漢字、ローマ字標音は誤植も含めできるだけ忠実に記した。右から左に向かって書かれている漢字文字列は左から右に進むよう改めた。本文中に用いられた漢字はすべて「」でくくり、訳文と区別した。漢字に付されたラテン語訳については“ ”を用いて示す。
- ・中国語がローマ字でのみ書かれている部分はその表記を記し、その直後に<>を付して推定される漢字を加えた。
- ・声調記号や気音の表示がなかったりそれらが誤っているように見えたりと、ローマ字表記には問題が頻出する。本文では原則としてローマ字標音について注記しないが、特に注意を要する場合にのみ(sic)の記号を付した。
- ・訳文において日本語を補う必要がある場合には適宜[]で示した。
- ・英訳本において削除されている箇所は下線で示す。原文にはないにもかかわらず、意味を明確にするため以上のフレーズや文が追加されていると判断される部分については注で指摘した。
- ・対照のため用いた英訳本は *The Notitia Linguae Sinicae of Premare. Translated into English by J. G. Bridgman. Canton: Printed at the Office of the Chinese Repository, 1847* である。

(承前)

第五節 小詞「乎」hou について

第一に、「於」yu “上に” と全く同じように、多くの動詞の目的語と結びつく。Han yu<韓愈>は言った、「足乎已 無待於外之謂徳」¹tsou hou ki, vou tai yu vai tchi ouei te “自身で充足し、自らの外に期待することがない、これは徳と呼ばれる”と。[この]文はやや長く、10字から成るが、あなたが取り除けるものは何もなく²、むしろ明瞭で簡潔なのである。Tchoang-tsee<莊子>は言った、「暨乎門」³ki hou men “彼が門に至った時”と。「所藏乎身」⁴so tsang hou chin “自分自身、あるいは心に隠しているもの”。「孝乎鬼神」⁵hiao hou kouei chin “精霊に対して敬虔である”。「先慎乎徳」⁶sien chin hou te “彼はすべてに対して徳のある態度である”。「好°學近乎知」⁷hao hio kin hou tchi “学習を愛する人は知恵までさほど遠くない”。「異乎所聞」⁸y hou so ven “これは今まで私が学んできたことどもとは異なっている”⁹。「吾無隠乎爾」¹⁰ngou vou yn hou ell “私は何も君に隠していない”。孔子は[上の]ように彼の弟子に言った。「難乎有恒矣」¹¹nan hou yeou heng y “人がかくも長く持ちこたえるのは難しい”¹²。「素富貴行乎富貴」¹³so fou kouei hing hou fou kouei “もし君が富んでいるのならば、その富にふさわしく行動せよ”¹⁴。

第二に、「乎」は感歎や詠嘆¹⁵[を表す語]である。例えば「惜乎」¹⁶si hou “ああ実に悲しい!” 「巍巍乎」¹⁷ouei ouei hou “ああ、何と高いのか!” 「洋洋乎」¹⁸yang yang hou “何と無限に広いことか!” 「深乎深乎」 chin hou chin hou “何と深いのか!”。かようによく繰り返す[表現]は

¹ 韓愈「原道」。英訳本では「已」を「己」に作る。

² 英訳本はこの部分を「どの字も文意を傷つけることなしに取り去ることはできない」と訳す。

³ 『莊子』列御寇。

⁴ 『大学』九章。

⁵ 『論語』泰伯。ただし『論語』原文は「菲飲食而致孝乎鬼神」と下線部分を省略している。

⁶ 『大学』十章。

⁷ 『中庸』二十章。なお「好」右上の○は去声を示す圈点である。英訳本にもある。

⁸ 『論語』子張。なお『論語』原文は「異乎吾所聞」であり、引用では「吾」を省略する。

⁹ 英訳本では「私が聞いたこととは」と訳す。

¹⁰ 『論語』述而。

¹¹ 『論語』述而。

¹² 英訳本では主語を「彼が」とする。

¹³ 『中庸』十四章。

¹⁴ 英訳本は「もし君が豊かで敬われているならば、豊かで敬われるように行動せよ」と訳す。

¹⁵ 英訳本では「詠嘆」ではなく「同情」と訳す。

¹⁶ 『論語』子罕。

¹⁷ 『論語』泰伯。

¹⁸ 『論語』泰伯。

Lao-tsee<老子>と Tchoang-tsee<莊子>に多い。同じ意味だが、「嗚」と結ばれるとその時[は「乎」を]「呼」hou と書くことになっている。例えば「嗚呼堯舜之徳至矣」ou hou yao chun tchi te tchi y “おお、Yao<堯>王と Chun<舜>王の徳は何と桁違いであることか！”。葬礼においては、この「嗚呼」は悲しみ[を表す]。

第三に、「乎」は単に[文の]優美さおよび種々の理由¹⁹によって置かれる。例えば「禮樂於是乎興衣食於是乎足&c.」²⁰li yo yu che hou hing, y che yu che hou tsou “その時礼儀と協調が重視され始め、その時すべての人々は衣服と食料に満足した”。このように左氏[は言う]。しかし yu che hou<於是乎>は[用例としては]少数である。

第四に、疑問を表すことが非常に多いが、それには多くの言い方がある。

1. 単独[で用いる]時。「可乎」k'ò hou “そのことは許されているか？”²¹「宜乎」y hou “それは正しいかどうか？”「仁矣乎」²²gin y hou “これは真の慈愛と見なされるかどうか？”ここで「矣」は疑問を全く表しておらず、純粹に語調のために挿入されているのだ。もし「乎」の後ろに何かが続けば、その時は疑問の度合いが下がる²³。例えば「宜乎有悔」y hou yeou hoei “彼が後悔するのはもっともだ”。もし[「乎」が]“彼は後悔する”の後ろにあればそれは詠嘆を示す。[しかしこの場合]「乎」は全く単独で「宜」y に続いている。²⁴

2. 「豈」ki と共に結びつく時。例えば「豈可得乎」²⁵ki ko te hou “誰がそれになることができるのか”、“誰がそれを得ることができるのか”。この言い方は非常によくあるので、多くの例を加える必要はない。

3. 「乎」の後ろに「哉」tsai が置かれる時。例えば「仁遠乎哉」²⁶gin yuen hou tsai “仁はここから遠いのであろうか？”「仁其遠哉」と言うこともできるが、「仁遠乎哉」と言った方がずっと力強い。

4. 「不亦」pou y が先行する時。例えば「不亦可乎」²⁷pou y ko hou “これは許されているのか？”

¹⁹ 英訳本はこの代わりに「音調」と訳す。

²⁰ 歐陽修「南省試策五道」。従って次の本文に左氏からの引用とするのは誤り。なお、引用は以下の原文の下線部分を省略している：「土處閑燕，談仁義，禮樂於是乎興，農服力穡，限井田，衣食於是乎足」

²¹ 英訳本は「我々に」という語が加わる。

²² 『論語』里仁。

²³ 英訳本は文の後半を「疑問を表すことはなくなる」と訳す。

²⁴ つまり「有悔乎」となれば詠嘆を示すが、「宜乎」であればこの形で完結していることを言う。ただしこれまでの説明では文末の「乎」は疑問を表すはずであるから矛盾が生じる。

²⁵ 『莊子』列禦寇。また『左伝』宣公伝十二。

²⁶ 『論語』述而。

²⁷ 『論語』雍也。

「不亦樂乎」²⁸pou y lo hou “あるいはこの点で楽しいのではないか?” 「不亦悲乎」²⁹pou y poei hou “それは悲しむべきではないのか?” 「死而後已不亦遠乎」³⁰ssee ell heou y, pou y yuen hou “これを死ぬまで絶えず保持していること、これは私の愛することだが、これは永続しうるのか?”³¹

5. 「於」yū について述べたように、比較級[の印]として現れる。例えば「吾一日長乎爾」³²ngou y ge tchang hou ell “私は君より一日分年上だ”。またこの時否定詞「莫」mo が優雅に置かれる。例えば「莫高乎天」³³mo kao hou tien “天より高いものは何もない”。Ngheou-yang-tsee<歐陽子>は言う、「詩書之所美莫大乎堯舜」³⁴chi chu tchi moei mo ta hou yao chun “chi<詩>と chu<書>の中で、Yao<堯>王と Chun<舜>王ほど賞賛され高められている者はいない”と。「後世之盛者莫盛乎漢與唐」³⁵heou che tchi tching sic tche mo tching hou han yu tang “前の時代の栄光と偉業を考えると、Han<漢>と Tang<唐>の王朝よりも輝かしいものはない”。

6. 疑問の数だけ、あるいは異なる句の数だけ³⁶繰り返されなければならない。Tchoang-tsee<莊子>は言う、「不識今之言者其覺者乎其夢者乎」³⁷pou chi kin tchi yen tche, ki kio tche hou, ki mong tche hou “今語っている私が目覚めているのか夢を見ているのか、私は知らない”と。孔子は言った、「執御乎執射乎」³⁸tchě yú hoû, tchě ché hoû “私は御者をしようか、むしろ射手をしようか?”と³⁹。「宜乎否乎」y hou feou hou “適当であるか、そうでないか”。

7. 音がいくらか堅い「庶」を和らげるためよくそれと結びつく。例えば「則庶乎其可矣」⁴⁰tse chu hou ki k'ò y “この方法はちょうど実行できるように思われる”。「以及乎中則庶乎至矣」⁴¹“一度核心に達した人は、更に続けるべきものを何も持たないように⁴²私には思われる”。洗練された中国人は堅い[語]を[句の]前に附加することを好まないが、「庶乎」あるいは「庶幾」“～は十分にある”、“～と推測する”とは言う。

²⁸ 『論語』学而。

²⁹ 『莊子』齊物論など。なお英訳本は「悲」を「非」に作る。

³⁰ 『論語』泰伯。

³¹ 英訳本は「死ぬまでに我々はどうのようにしてここを越えていくのか」と訳す。

³² 『論語』先進。ただし『論語』原文は「以吾一日長乎爾」であり、引用は「以」を省略している。

³³ (宋) 林栗『周易経伝集解』卷二十二。

³⁴ 欧陽修「代楊推官泊上呂相公求見書」。ただし原文は「堯舜三代」であり、引用は「三代」を省略している。なお英訳本は「乎」を「平」に作る。

³⁵ 同上。ただし原文は「其後世之盛者」であり、引用は「其」を省略している。

³⁶ 英訳本は「異なる句の数だけ」ではなく「反対のことを言う時」と訳す。

³⁷ 『莊子』大宗師。

³⁸ 『論語』子罕。

³⁹ 英訳本では後半部分を「それとも槍を持とうか」と訳す。

⁴⁰ 『論語』子張。

⁴¹ 欧陽修「与張秀才棐第二書」。ここにローマ字標音はない。

⁴² 英訳本では「極限の点に達したように」と訳す。

第六節 小詞「諸」tchūについて

第一に、諸例に見えるように、「於」yuや「乎」houと全く同一である時がある。「惟求諸己」⁴³ “自身から、自身においてのみ求める”。「君子之道本諸身徴諸庶民」⁴⁴kiun tsee tchi tao pen tchu chin, tching tchu chu min “賢人の道理あるいは徳というものは、自身にその根を持ち⁴⁵、[彼が治めるところの]人民の振るまい方によって[それを]判断する”。「則反諸其人乎抑亦立而視其死與」⁴⁶tse fan tchu ki gin hou y y li ell chi ki ssee yu “自らに羊たちを任せた人に対し、彼は羊たちを返すだろうか？彼は羊たちが衰れにも死んでいくのを立ったまま見ているだろうか？”「與」は疑問詞であり、前の部分の小詞「乎」に対応する。「書諸紳」⁴⁷chu tchu chin “彼はそれを帯に書き留めた”。「示諸掌」chi tchu tchang “手の上で見せる”。

第二に、これら及び類似の文においては単なる文末詞であるように見える。「堯舜其猶病諸」⁴⁸ “Yao<堯>や Chun<舜>ですらこれについては十分に苦労している”。Yao<堯>と Chun<舜>の後ろにある名詞「其」k'i が、動詞である ping「病」に関係づけられていることは明らかだ。⁴⁹というのは、さもなければ[文が]意味を成さないからである。確実に、ここで「諸」は代名詞であり動詞「病」pingの[目的]格である。

第三に、「諸」は代名詞ではあるものの、一般に常に疑問[を表す]。例えば「有諸」⁵⁰yeou tchu “これは与えられているか？” 答え:「有之」yeou tchi “確かに与えられている”。「人有舍諸」⁵¹gin yeou che tchu “人々はそれを捨てているか？”⁵²「雖有粟吾豈得而食諸」⁵³soui yeou sou, ngou ki te ell che tchu “彼らが穀物⁵⁴を蓄えているとしても、私はそれらを食べるだろうか？”

第七節 小詞「邪」yêについて。「耶」も同様。

第一に、[「邪」と「耶」という]この二つの小詞は疑問[を表し]、「乎」houや「哉」tsaiのよ

⁴³ 「反求諸己」の形であれば『孟子』離婁上に見える。なおここにローマ字標音はない。

⁴⁴ 『中庸』二十九章。

⁴⁵ 英訳本では「自身にその根を持ち」ではなく「徹底的な原則を内に含み」と訳す。

⁴⁶ 『孟子』公孫丑下。

⁴⁷ 『論語』衛靈公。

⁴⁸ 『論語』雍也。ここにローマ字標音はない。

⁴⁹ 英訳本は「名詞「其」k'i は Yao<堯>と Chun<舜>を指す。ping「病」は動詞として使われているようだ」と訳す。ラテン語を見る限り「其」が Yao<堯>と Chun<舜>を指すとまでは言っていないように思われる。

⁵⁰ 直後の「有之」と合わせて『論語』述而。原文は「子曰、有諸。子路對曰、有之」。

⁵¹ 「人其舍諸」であれば『論語』子路に見える。

⁵² 英訳本は「彼を拒絶するか？」と訳す。

⁵³ 『論語』顔淵。原文の「豈」字はテキストによってあるものかないものに分かれる。

⁵⁴ 英訳本は「果物」と訳す。

うに文末に置かれなければならない。「乎」hou、「邪」あるいは「耶」、「哉」tsai を使うべき場所は、書物を読む際に注意することによって学ぶことができる。なぜなら、こうしたことはこの類の無数の用例と聴解によって会得できるのであり、規則や法則によって導くことはできないからだ。選び取られたこれらの例から学ばれたい。「豈待有病而後禱耶」⁵⁵ki tai yeou ping ell heou tao ye “祈るよりも前に病になるのを待つというのか？”「豈知大臣者耶」⁵⁶ki tchi ta tchin tche ye “これは、高位のマンドリンであるとはどういうことかを知っていることではないのか？”「豈真樂於舟居者耶」⁵⁷ “私は船の中にいることを本当に楽しんでいるのではないか？”「居於舟」よりも「於舟居」と言う方が良い。というのは、小詞「者」tche の使用がよりびったりくるからだ。「此豈近於人情邪」⁵⁸tsee ki kin yu gin tsing ye “これは人間の感情に適っているのではないか？” Tchoang-tsee<莊子>は木を代弁して以下のように言った、「使予也而有用且得此大也邪」⁵⁹ssee yu ye ell yeou yong, tsie te tsee ta ye ye “もし私が何か役立つものになっていたならば、私はこのような高さに達することができただろうか？”と[この例文では以下のことを]注記せよ。1. この寓話の持つ意味。2. ヨーロッパ人は決して「使予也而有用」とは言わず、もし[その人が]“人”を使えたならば「若人用得我」、あるいは[使えないならば]「我無用故[sic]得大」と言うだろうが、私はいずれも[中国人相手には]使えないと判断した。3. 「邪」[について]。もし「得此大邪」とあなたがすれば、耳はそれほど喜ばないだろう。[つまり響きがよくないのだ]

第二に⁶⁰、「乎」hou について述べたように、優雅に繰り返される。私がここに挙げる諸例はまことに注記すべきである。「然則所謂心者。為一耶。為二耶。為主耶。為客耶。為命物者耶。為命於物者耶」⁶¹ “私たちが「魂」と呼ぶこのものは単一なものではないのか、または他の諸物の複合なのか？[それは]神⁶²なのか、それとも客なのか？[それは]外部の物体に命じるものなのか、それとも外部の物に対して自ら命じるものなのか？”この言葉がどれほど明白で簡潔か、味わうことは易しい⁶³。Tchouang-tsee<莊子>は言う、「未知樂之果樂耶果不樂耶」⁶⁴ouei tchi lo tchi ko lo ye, ko pou lo ye “誰がかくも楽しんでいるのか、それ自身で楽しんでいるのか、あるいは全く楽し

⁵⁵ 『四書解義』の『論語』述而注。なお原文は「病」を「疾」に作る。

⁵⁶ 同上、『論語』先進注。英訳本は「我々は公僕の属性が何かということをもどのようにして知るのか」と訳す。

⁵⁷ 歐陽修「画舫齋記」。英訳本は「私は船中を耐えることをどのようにして楽しめばよいのか」と訳す。なおここにローマ字標音はない。

⁵⁸ 歐陽修「縦囚論」。英訳本は「これを人間の感情にどのように合わせられるのか」と訳す。

⁵⁹ 『莊子』人間世。

⁶⁰ 英訳本は「第一に」とする。

⁶¹ 『朱子全書』卷四十四。ここにローマ字標音はない。

⁶² 英訳本は「主人」と訳す。

⁶³ 英訳本は「このような文の剛健さと明快さを楽しまないというのは難しいことだ」と訳す。

⁶⁴ 『莊子』至樂。

んでいないのか、私は全く知らない”と。同様に「莊子は]言う、「未知善之誠善耶。誠不善耶。若以爲善矣。不足活身。以爲不善矣。足以活人」⁶⁵ “名声を得ようという欲がそんなに良いものだろうか、逆にそうでもないのか、私は知らない。(ここではひろんのこと Hoã<滑>について述べている⁶⁶)もし私が良いものだと言え、ずっと生きるという点については満たされないと。逆にもし良くないのだと強調すれば、名が永遠に記憶されるということを楽しむ[ことができないと]君は言うだろう”と。「この文について以下を]注記せよ。1. 「樂之」と「善之」の lo<樂>と chen<善>は動詞であり、「之」は目的語である。2. 「果不樂」 ko pou lo と「誠不善」 tching pou chen というのは正しく、もしあなたが「不誠善」と言えば別の意味となってこれら三字は正しく対応しない。初めの三字「果不樂」[についても同様である]。3. 「以爲」は“～と思う”、“判断する”を意味する。4.[引用文後半の]初めの部分に「若」 jo を置き、二番目[の部分]には「若」を]置かない。「不足活身」と言った後で「足活人」とは言わずに「足以活人」と言うのは、初めの「若以爲善矣」と三つめの「以爲不善矣」という五字があるために、[五四五四と字数をそろえるべく]このようにこれら四字を配するのである。[しかし]この点について初学者は気づかない。Ngheou-yang-sieou<歐陽修>は言う、「知其可舉耶。抑偶舉之耶。若知而舉則&c.」⁶⁷ “君は彼をよく改めたから昇進させたのか？あるいは偶然によって[昇進させたの]か？もし前者なら、それは～”と。[歐陽修は]他の箇所でのこの[以下の]ように自らの友人を弁護する。「果不賢也」 “もし本当に彼が賢明でないならば、君は皇帝に注進せねばならず、また君が彼を攻撃するような哀れな状況を待たねばならない”。「若果賢也」 “しかし彼が賢明で善良であるならば、あらゆる哀れな[状況に]陥らぬよう、君と彼のことを宮廷に報告せねばならない”。ある点について議論をし賛否がある時、優雅な中国人はこのような相関論法を用いて賛意を得ようとするのである⁶⁸。

第八節 文字「與」 yū について

この字は小詞であるとも、また他の多くの意味を持っているとも考えることができる。従ってこの節を二つの小節に分かつ。私は他の多くの用法についても同様に[節を分かつことが]できるが、我々は小詞について適切に分類を行うから、一度や二度余分な飛躍があっても十分であろう。

⁶⁵ 同上。ここにローマ字標音はない。

⁶⁶ 未詳。同じ至楽篇の支離叔と滑介叔のエピソードから仮に「滑」としておくが、「滑」は入声であるから Hoã であるべきところである。またこの名声に関する部分と死を畏れない滑介叔のエピソードとはあまり対応しない。

⁶⁷ 歐陽修「上杜中丞論舉官書」。「抑」は原文では「是」である。またここにローマ字標音はない。

⁶⁸ 英訳本は文の最後を「よく用いられる」と訳す。

一 小詞「與」yuについて

第一に、接続詞と繫辞[である]。例えば「子罕言利與命與仁」⁶⁹tsee han yen li yu ming yu gin “孔子は利益、運命、仁義についてほとんど語らなかつた”。「仁與義」「仁愛と正義」である。「貧與賤是人之所惡^〇也」⁷⁰pin yu tsien che gin tchi so ou ye “人は貧困と輕蔑を生来拒むものだ”。

第二に、単なる純粹な語末詞である。例えば「其此之謂與」⁷¹ki tsee tchi ouei yu “これはまさに私の言っているところのものだ”。この「其此之」に注意せよ。ヨーロッパ人はこのように言ったり書いたりしない。「其之謂也」も同じ意味である。

第三に、疑問詞であることがあり、その時はよく「歟」と書かれる。例えば「然則舜不禁與」⁷²gen tse chun pou kin yu “もしそのようであるならば、なぜ Chun<舜>は禁止しなかつたのか？”「如弗能救與」⁷³ju foe neng kieou yu “君は彼を救うことができるのではないか？”「可不慎歟」⁷⁴ko pou chin yu “すべてに注意深くあるべきではないのか？”「則固可放與」⁷⁵tse kou ko fang yu “それゆえ直ちに解放すべきではないのか？”「君子人與」⁷⁶kiun tsee gin yu “彼は賢いか？” 答え：「君子人也」「そうだ」⁷⁷。「何其謬論者與」⁷⁸ho ki mieou lun tche yu “この議論よりも意味のないことなどありえようか？”「然則果可謂之文章者歟」⁷⁹gen tse ko ko ouei tchi ven tchang tche yu “これは優雅でよく構成された簡潔な文章とは言い得ないのではないか？”

第四に、「乎」hou や「耶」ye[の項]で述べてきたことが「與」yu についても同様に言える。孔子は彼が向かう王国において起こることを直ちに悟った。それゆえ他の[弟子たち]に[以下のように]尋ねたのである⁸⁰。「求之與抑與之與」⁸¹kieou tchi yu, y yù tchi yu “これは他人によって引き起こされるのか、あるいは他人が自発的にこのことをもたらすのか？”「與之」において yu は動詞“与える”である。そして「求之」が[対義語として]対応する。同様に、孔子はもう一人

⁶⁹ 『論語』子罕。

⁷⁰ 『論語』里仁。なお引用文には「惡」の右上に去声に読むことを示す圈点がある。英訳本にもある。

⁷¹ 『論語』学而あるいは季氏。

⁷² 『孟子』尽心上。『孟子』原文、英訳本ともに「與」である。

⁷³ 『論語』八佾。なお原文は冒頭の「如」を「女」に作る。また『論語』原文、英訳本ともに「與」である。さらに英訳本は「彼」ではなく「これ」と訳す。

⁷⁴ 『莊子』人間世。なお原文は最後の「歟」を「與」に作るが、英訳本は「歟」に作る。

⁷⁵ 『孟子』尽心上。『孟子』原文、英訳本ともに「與」である。

⁷⁶ 『論語』泰伯。『論語』原文、英訳本ともに「與」である。なお英訳本は「彼は哲人か？」と訳す。

⁷⁷ 英訳本は「彼は哲人だ」と訳す。

⁷⁸ 欧陽修「襄州穀城縣夫子廟碑記」。

⁷⁹ 欧陽修「内製集序」。

⁸⁰ このエピソードは孔子が直接語ったものではなく子禽の台詞である。

⁸¹ 『論語』学而。

[の弟子]と北方の人々の強さ、あるいは哲学者の強さについて論じた。「北方之強與抑而強與」⁸²pe fang tchi kiang yu, y ell kiang yu.ここで「而」は「爾」ell “君”、“君の”あるいは“君たちの”と同じである。[孔子は]身体が強いことよりも魂の強さを求める弟子たちに語ったのである。

第五に、感歎と賞賛[を表す]。例えば「舜其大知也與」⁸³chun ki ta tchi ye yu “おお、舜は何と賢かったのか！” 私はすでに「舜其」の[語順の]置き換え[をすると意味がどう変わるか]について注記した。あなたがここで「其舜」と言うのは最悪であるが、「舜也其」ならば言いうる。孔子は人間の完全な徳を積むことについて語った、「其吾回也與」⁸⁴ki ngou hoei ye yu “私のHoei<[顔]回>はそのようであったと言える”と。

第六に、二つのものを比べる用法があり、[この時]後ろに「寧」ning が置かれ、後者が前者より良いということを示す。例えば「禮與其奢也寧儉」⁸⁵li yu ki che ye ning kien “外的な儀礼の華美を求めることもあるが、贅沢であることよりも控えめであれば[それで]十分だ”。「喪與其易也寧親」⁸⁶tsang yu ki y ye ning tsin “両親の葬礼においても、空虚なうわべを示すことより心から発する真の悲しみのほうがずっと勝っている”。「與其不孫也寧固」⁸⁷yu ki pou sun ye ning kou “横柄で傲慢であるよりは、田舎っぽく見える方が良い”。⁸⁸この言い方では常に「與」の後ろに「其」が続き、「寧」の前に「也」が置かれるが、その[「也」の]場所に「毋」vou が[代わりに]配される。例えば「與其登玉宮而肆貪毋寧居茅而知足」⁸⁹ “宮殿に住んで欲望の手綱を緩めてしまうよりも、貧しい住まいで[物が]少ないことに満足している方がよい”。Tchoüang-tsee<莊子>は「與」yu なしで同じことを表して言う、「甲與乙孰美」⁹⁰kia yu y chou moe と。[この問いに対する]答え：「甲哉」kia tsai “この二人のうちどちらがより美しいか？Kia<甲>か、Y<乙>か？” 答え：“Kia<甲>だ”。同じく[莊子は]言う、「甲與乙孰是而孰非乎」⁹¹kia yu y chou che ell chou fei hou “この二

⁸² 『中庸』十章。なおここに訳文はない。

⁸³ 『中庸』六章。

⁸⁴ 『論語』子罕。

⁸⁵ 『論語』八佾。なお引用文の最後の字は原文では「儉」である。なお英訳本は「外的な儀礼については贅沢な方が良い」と真逆の意味に訳す。

⁸⁶ 『論語』八佾。英訳本では「易」の圈点がない。

⁸⁷ 『論語』述而。

⁸⁸ 英訳本ではここに「字が常に同じ並び方をしていることに気づかれない」という一文が加わる。

⁸⁹ 何世貞「崇正必弁後集」下巻。なお原文は「茅屋」だが、引用文は「茅」に作る。また英訳本では「與其發玉工而肆貪毋寧居茅而知足」とする。英訳本も「茅屋」ではなく「茅」。なおここにローマ字標音はない。

⁹⁰ 『孟子』尽心下「膾炙與羊棗孰美、孟子曰、膾炙也」か。これが出典であれば、プレマールが莊子からの引用としているのは誤りとなる。またラテン語による訳は人間の美しさを比べる意味だが、孟子の文は明らかにそうではない。

⁹¹ 『莊子』知北遊。ただし引用文の「甲乙」は本来「無窮之弗知與無為之知」である。

つのうちどちらが正しくどちらが誤っているか？”[莊子からの]これら二つの例において、「與」yu は繫辞である。[二つめの例文では]始めに「而」ell が上手く加えられ、最後に「乎」がなかなか上手く置かれている。「甲乙」は我々[ヨーロッパ人]の A, B のようなものである。

第七に、「同」「同様の」と「異」「異なる」は yu<與>を要求する。例えば「聞而不行與不聞同」ven ell pou hing yu pou ven tong “徳についてあることを聞きながらそれを苦労して実行しない、[それは]君が何も聞いていないことと同じだ”。「彼必相與異」⁹²pi pi siang yu y “それらは本当に互いに異なっている”。

第八に、我々[ラテン語]の前置詞“～とともに”に対応する。「與民同樂」⁹³yu min tong lo “一つのことを人民と楽しむ”。Chi-king<詩経>なる書には[こうある]、「不與我言不與我食」⁹⁴pou yu ngo yen, pou yu ngo che “彼は話さず、私と食事もしない”と。Tso chi<左氏>は言う、「夫誰與王敵」⁹⁵fou chou yu vang ti “その時、ああ、王様、誰があなたとあえて争いましょうか？”と。

二 名詞と動詞である「與」yu について

Pin-tsee-t sien<品字箋>なる辞書は、この字について正しく述べて言う、「本上聲轉去聲借平聲」pen chang ching, tchoüen kiu ching, tsie ping ching “[與は]第二声 yù に属し、時々第三声 yú へ変化し、暗喩によって第一声 yū に読まれる”と⁹⁶。「借」はまさしく“比喩”を意味する。なぜならば本来の意味で分詞であるような字は何もないからである⁹⁷。

第一に、[上声の]yù には多くの様々な意味がある。

1. 「授」cheou “手渡す”と同じである⁹⁸。Mong-tsee<孟子>は言う、「舜有天下孰與之」⁹⁹“Chun<舜>は全世界を統治している。誰がそれを彼に与えたのか？”と。[その問いへの]答：「天與之」tien yu tchi “天が彼に与えた”。

2. 「歸」kouei “～に帰る”と同じである。同じく Mong-tsee<孟子>は言う、「天下莫不與也」¹⁰⁰tien

⁹² 『莊子』至楽。

⁹³ 『孟子』梁惠王下。

⁹⁴ 『詩経』鄭風・狡童。なお引用文は各句末の「兮」や、間の「彼狡童兮」といった句を省く。

⁹⁵ 『孟子』梁惠王上。『左伝』にこの句は見あたらない。

⁹⁶ ここでは第一声＝平声、第二声＝上声、第三声＝去声である。なおプレマールの全編を通して「與」の平声はほぼすべて陰平 yū と標音される。

⁹⁷ つまり、プレマールが言うところのすべての分詞(おおそ虚詞に相当)は何らかの具体的な意味を持つ字から「比喩」によって分詞としての意味を獲得しており、最初から虚詞を表すために作られた字はない、という主張である。

⁹⁸ 英訳本では「関与する」という語釈も加わる。

⁹⁹ 『孟子』万章上。ただし本文は「然則舜有天下也孰與之」であり、引用文は下線部を省略している。なおここにローマ字標音はない。

¹⁰⁰ 『孟子』梁惠王上。

hia mo pou yu ye “全世界は近づいてきて彼のもとに集まる”と。

3. 「許」hiu “許す” “妨げない”と同じである。例えば「與其進」¹⁰¹yù ki tsin “彼が入ってくるのを許す”。孔子は言った、「弗如也吾與女弗如也」¹⁰²foe ju ye ngou yù ju foe ju sic ye “君はそのようではないと言ったが、私はそのようではないと言う君に賛成する”と。[子貢は]謙虚にも、自らが他の弟子を越えてはいないと言った。そして師は[上のように]答えた。君の謙虚さは、君が考えているようなものではない[、もっとすばらしいものだ]と[いう意味である]。Ta-hio<大学>なる書は言う、「不與同中國」¹⁰³pou yù tong tchong koue “中央の王国[即ち中国]と[絆を]固めることを許さない”と。

4. 「天地與之」¹⁰⁴tien ti yù tchi “天と地がこの誓いに反応している”。

5. 「相與」siang yu “親しく”。「相與言曰」¹⁰⁵siang yu yen yue “彼らは互いに議論していた”。

6. 「黨與」¹⁰⁶tang yu “盟約した団体”。

7. 「歳不我與」¹⁰⁷sou pou ngo yu “時は私を待たない”。[ここでの「與」は]「待」tai に同じである。「以禮相與」¹⁰⁸y li siang yu “互いに礼儀正しく振る舞う”のように。

8. 「弗與」foe yu は「弗如」“そのようではない”に同じ。

9. 「施與」che yu “与える”、“利益をばらまく”。

10. 「容與其心」¹⁰⁹yong yu ki sin “人の心を晴れやかにする”。

11. 「無與」vou yu つまり「弗用」“役に立たない”、“使われない” [の意味]である。

12. 「不與問」¹¹⁰pou yu ven “私は彼から尋ね求めることができなかった”。

13. 「異與之言」¹¹¹suen yu tchi yen “きわめて配慮深くなされる助言”

14. 「天何與焉」¹¹²tien ho yu yen “君が語ることについて、天は君の語ることと何の関わりがあるのか?”

15. 「與知」¹¹³ “知が与えられる”。

¹⁰¹ 『論語』述而。

¹⁰² 『論語』公冶長。

¹⁰³ 『大学』十章。

¹⁰⁴ 『管子』形勢解。

¹⁰⁵ 『莊子』庚桑楚。

¹⁰⁶ 『管子』八觀。

¹⁰⁷ 『論語』陽貨。

¹⁰⁸ 『礼記』礼運。この引用は本来ならばこの箇所ではなく、先の5.の例としてあるべきであろう。

¹⁰⁹ 『莊子』人間世。なお英訳本は項番号を10ではなく20とする。

¹¹⁰ 『朱子語類』卷一百三十。

¹¹¹ 『論語』子罕。

¹¹² 欧陽修「易或問」。

¹¹³ 『中庸』十二章。英訳本は「我々は知るかもしれない」と訳す。なおここにローマ字標音はない。

第二に、[去声の]yú<與>[について]。例えば「與祭」¹¹⁴yú tsi “儀式に参加する”。「與席」¹¹⁵yu si “席につく”。「猶與」あるいは「猶豫」yeou yu “逡巡する”、“解決しない”。というのは、彼は安全なはずのことを恐れているからだ¹¹⁶。例えば「狐疑猶與後必有悔」¹¹⁷hou y yeou yu, heou pi yeou hoei “好機に疑ってかかる人は、それゆえにいつもそれを逃す”。

第三に、以下の文について熟考せよ。「孰與我」¹¹⁸chou yu ngo “誰が私のようなのか?” 「有天下而不與焉」¹¹⁹yeou tien hia ell pou yu yen “天下を有しているが、まるで持っていないのと同じであるかのようだ”。「不可與入堯舜之道」¹²⁰pou ko yu ge sic yao chun tchi tao “この人を崇高な Yao<堯>と Chun<舜>の道に入らせることはできない”。「君子有三樂而王天下不與存焉」¹²¹kiun tsee yeou san lo ell vang tien hia pou yu tsun yen “賢者は三つのことを楽しむが、世界を所有することはその中に数えられていない”。「王」はここでは動詞であり「天下」がその目的語である。Ngheou-yang-tsee<歐陽子>は言う、「非三皇之徳其孰能與於此乎」¹²² “もし三人の Hoang<皇>のように賢いのでなければ、誰がこのような完璧さを我が物とすることができるだろうか?”と。この言い方がよく現れる Hi-tsee<繫辞>の冒頭¹²³から[以下の]これを選んだ。「非天下之至神其孰能與於此」¹²⁴fei tian hia tchi tchi chin, ki chou neng yu yu tsee “世界において至高の霊と知がなければ、何がこれを[することが]できようか?” 「於予與可誅」¹²⁵ “彼が罰せられるかどうかは私次第だ”。「於予與改是」¹²⁶yu yu yu kai che “弟子 Yu<[宰]予>は私の考えを変えさせた”。一つ目の文において「予」は代名詞「私」であり、二つめにおいては彼の弟子の名である。さらに「於予與」はその中に何の雑音もなく、快く中国人の耳を刺激するのである¹²⁷。

第九節 分詞「而」è|| について。「爾」や「耳」è|| も同様。

第一に、同時に三つ[の字]が音の近さゆえに[この節に]置かれるが、むろんのこと、古代の書

¹¹⁴ 『論語』八佾。

¹¹⁵ 『儀礼』士冠礼。

¹¹⁶ 英訳本はこの説明を語釈に入れて「すべてを恐れる」とする。

¹¹⁷ 『史記』卷八十七、李斯列伝。原文は「與」を「豫」に作る。

¹¹⁸ 『史記』卷一百一十六、西南夷列伝。なお本文は「漢孰與我大」であり、引用には省略がある。

¹¹⁹ 『論語』泰伯。なお本文は「堯舜有天下也而不與焉」であり、引用には省略がある。

¹²⁰ 『孟子』尽心下。

¹²¹ 『孟子』尽心上。

¹²² 歐陽修「三皇設言民不違論」。なおここにローマ字標音はない。

¹²³ 『易経』繫辞伝のこと。

¹²⁴ 『易経』繫辞伝上、第十章。

¹²⁵ 『論語』公冶長。なおここにローマ字標音はない。

¹²⁶ 『論語』公冶長。

¹²⁷ すべて yu (声調を除く) という音で構成されていることを言う。

において「而」は「爾」ellの代わりに用いられる。

1. 「而」êllについて

第一に、我々[ラテン語]の“～と”に等しい接続詞である。それらは三つか四つの言い方に区分され、常に接続詞ではあるが、結びつけた部分の中にもいくらかの相違があるように思われる。

1. 一般に「與」yuと合わさる[と考えられている]が[実は]異なる。なぜなら「而」は[後ろに]何か結論を求めるが、「與」はそうではないからだ。ここで、「而」はよく[ラテン語の]“だがしかし”とみなされる。目[で確認する]ために例を置いておく。「不出家而成教於國」¹²⁸pou tchu kia ell tch'ing kiao yū kouë “彼は家から出ないのに王国すべてを教化している”。「述而不作」¹²⁹chu ell pou tso “大多数に受け入れられるものを後世に伝え、それ自身は全く創造しない”。「隱惡而揚善」¹³⁰yu ngo êll yang chen “他人の欠点を隠すが、その善いところは褒める”。「無過而無不及」¹³¹ “彼は逸脱や欠点がなければ罰することはなかった”。「富而可求」¹³²fou ell ko kieou “かくも富んでいながら正直に尋ねることができる”。

2. 小詞「而」の結びつく部分同士が逆[の意味]であれば、[文は]その分一層秀でたものとなり、[それゆえ]同様の諸例が書物のあちこちに現れる。しかし、他方「與」yuも「及」kiも同様の[逆接の]句を結ぶことはできない[例えば]。「淡而不厭」¹³³tan ell pou yen “味はないが、不快を引き起こさない”。「温而厲」¹³⁴ven ell li “平静だが重々しい”、“静かな莊重さと、莊重な静けさ”。あなたが「温與厲」と言うのはよろしくない。Tchoang-tsee<莊子>は言う、「得而不喜失而不憂」¹³⁵te ell pou hi, che ell pou yeou “彼は手に入れても喜ばず、失っても悲しまない”と。Tchong yong<中庸>なる書は言う、「不勉而中」¹³⁶pou mien ell tchong “彼は自ら力を入れずとも中庸を得る”と。「不思而得」¹³⁷pou ssee ell te “彼は心から求めずして得る”。「不動而敬」¹³⁸pou tong ell king “彼は自ら動かずして尊敬される”。「不言而信」¹³⁹pou yen ell sin “彼は話さないが信用を得る”。

¹²⁸ 『大学』九章。

¹²⁹ 『論語』述而。英訳本は「記録するが実行しない」と訳す。

¹³⁰ 『中庸』六章。

¹³¹ 未詳。英訳本は「多すぎずまた少なすぎない」と訳す。ここにローマ字標音はない。

¹³² 『論語』述而。

¹³³ 『中庸』三十三章。

¹³⁴ 『論語』述而。

¹³⁵ 『莊子』秋水。

¹³⁶ 『中庸』二十一章。

¹³⁷ 『中庸』二十一章。

¹³⁸ 『中庸』三十三章。英訳本は「彼は努力せずに尊敬される」と訳す。

¹³⁹ 『中庸』三十三章。

「極高明而道中庸」¹⁴⁰ki kao ming ell tao tchong yong “彼の助言は極めて賢明であり、平坦な道を行く”。「温故而知新」¹⁴¹ouen kou ell tchi sin “彼は古いことを愛するが、新しいことも知らないわけではない”。「不賞而民勸不怒而民威」¹⁴²pou chang ell min kuen, pou nou ell min ouei “恩典を与えないが人々は徳へと励み、怒りを示さないが人々は悪から遠ざかる”。もし「而民威」を“人々が彼を畏れる”と解釈すれば「而民勸」については何が[目的語として]先行するだろうか？[だからそのように解釈してはならない。]また哲学者 Sun-tsee<荀子>の言葉から[以下を引用する]。

「未施而親不怒而威」¹⁴³ouei chi ell tsin, pou nou ell ouei “彼は施しをしないが愛され、怒らないが畏れられる”。Tchong yong<中庸>なる書は言う、「視之而不見聽之而不聞」¹⁴⁴chi tchi ell pou kien, ting tchi ell pou ven “君はそれを見てはいるが見えておらず、それを聞いてはいるが聞こえていない。[これは]～だ”と。

3. 「而」の後ろに「己」^{ㄍㄧˇ}y か「己矣」^{ㄍㄧˇㄩˇ}y y が後続する¹⁴⁵。例は無数にある。「九人而已」¹⁴⁶kieou gin ell y “たった9人だけ”。「亦有仁義而已矣」¹⁴⁷y yeou gin y ell y y “仁愛と正義があれば、それで十分だ”。「道二仁與不仁而已矣」¹⁴⁸tao ell gin yu pou gin ell y y “道は一組であり、一つは仁愛[の道]、もう一つは残忍[の道]である”。

第二に、「雖」sou“～としても”、“～だが”の後ろに置かれねばならない。「善人雖多而不厭」¹⁴⁹chen gin soui to ell pou yen “善い人の多いことは嫌悪を引き起こさない”。「已而已而」¹⁵⁰ell y ell y “ああ！それならばやめてしまえ！”「而今而後」¹⁵¹ell kin ell heou “今現在も、永遠に”。Ta-hio<大学>においては「而後」ell heou “以後”、“後に”といい、Yang-tsee<揚子>¹⁵²は泉について「満而後洩」¹⁵³moüan ell heou sie “満ちた後に溢れる”という。

¹⁴⁰ 『中庸』二十七章。英訳本は「彼は全員からずば抜けていて、真の中庸を行く」と訳す。

¹⁴¹ 『論語』為政。

¹⁴² 『中庸』三十三章。なお本文は「不賞而民勸不怒而民威於斧鉞」であり、引用文は下線部を欠く。英訳本は「人々は悪から遠ざかる」を「人々は彼を恐れる」と訳す。

¹⁴³ 『荀子』不苟。

¹⁴⁴ 『中庸』十六章。なお原文は「不見」ではなく「弗見」に作る。

¹⁴⁵ 本来は「己」であるべきである。英訳本ははじめを「己」に、次を「已」に作る。

¹⁴⁶ 『論語』泰伯。

¹⁴⁷ 『孟子』梁惠王上。

¹⁴⁸ 『孟子』離婁上。英訳本は後半を「利己の道」と訳す。

¹⁴⁹ 歐陽修「朋党論」。英訳本は「善人の数はそんなに多くはないだろう」と訳す。

¹⁵⁰ 『論語』微子。英訳本は一つ目を「已」に、二つめを「己」に作る。また英訳本は「十分だ！十分だ！」と訳す。

¹⁵¹ 『論語』泰伯。

¹⁵² ローマ字標音から「揚子」としたが『法言』には該当の句は見いだせない。

¹⁵³ 「満而後漸」の形であれば『法言』学行に見える。

2. 「爾」と「耳」 ell について

「爾」 ell は二人称代名詞であり、「耳」 ell はもともと“耳”を意味するのだが、よく純粋な小詞として使用される。

第一に、[文の]最後に置かれ、多く[の場合]はそれが多くないことを示す。例えば「直好世俗之樂耳」¹⁵⁴tchi hao chi sou tchi yo ell “私の愛する音楽は好みから発する俗なものだ”。自らについて Ngheou-yang sieou<歐陽修>は謙虚に言う、「如修者天下窮賤人爾」¹⁵⁵ju sieou tche tien hia kiong tsien gin ell “貧しく賤しい弱者である私のように”と。[歐陽修は]同様に言う、「其不為君者幾何。惟不有其名耳」¹⁵⁶ki pou ouei kiun tche ki ho, ouei pou yeou ki ming ell “彼には王であるために何が欠けているのか？ただ名のみである”と。「不有」はここでは「没有」 mo yeou よりも良い。「前言戲耳」¹⁵⁷tsien yen hi ell “私はこれを冗談として言いたかったのだが”。「一間耳」¹⁵⁸y kien ell “差し挟むものは全くない”。「弗思耳矣」¹⁵⁹ “それは注意[不足]という欠点である”。

第二に、私が「然」と「如」 ju の箇所ですべてのように、副詞として働く。例えば「卓爾」¹⁶⁰tcho ell “自信を持って”。「率爾」¹⁶¹sou ell “ただちに”、“不意に”。同様に、それらに「云」や「焉」が優雅に先行する。例えば「不過如此云耳」 pou ko ju tsee yun ell “そのことは易しく、このようにやればよい”。中国語のことばはきわめて明瞭なのではあるが、その用法において極めて頻繁に転用がおこり、そのためそれらは[中国]語から[ヨーロッパ諸]語へ[逐字的に]説明することがほとんどできない。「惟所擇之焉爾」¹⁶²ouei so tse tchi yen ell “これは君の選んだものに基づいている”。

第十節 小詞「焉」 yen と「然」 gen について

1. 「焉」 yen について

第一に、文の最後において見いだされる。例えば「宜少思焉」¹⁶³y chao ssee yen “このことについてあなたが少しく注意を払うように私は望む”。「雖聖與賢未嘗無不幸焉」¹⁶⁴sou ching yu hien

¹⁵⁴ 『孟子』梁惠王下。

¹⁵⁵ 欧陽修「與荊南樂秀才書」。

¹⁵⁶ 欧陽修「春秋論」中。本文は「其不為正君者幾何」であり、引用文は下線部を欠く。

¹⁵⁷ 『論語』陽貨。原文は「前言戲之耳」であり、引用文は「之」を欠く。

¹⁵⁸ 『孟子』尽心下。

¹⁵⁹ 『孟子』離婁上「人之易言也，無責耳矣」か。

¹⁶⁰ 『論語』子罕。

¹⁶¹ 『論語』先進。

¹⁶² 欧陽修「易或問三首」。

¹⁶³ 欧陽修「答陝西安撫使範龍圖辭辟命書」。

¹⁶⁴ 欧陽修「投時相書」。ただし本文の「無不幸焉」は原文では「不有不幸焉」である。

ouei tchang vou pou hing yen “自らが尊かったり賢かったりした人々は、いつもその願いのすべてを叶えていたというわけではない”。「盡棄其學而學焉」¹⁶⁵tsin ki ki hio ell hio yen “彼は学んできたものを棄てて、正しい教えに没頭し始めた”。「心不在焉」¹⁶⁶sin pou tsai yen “心が飛び去ってしまった”。「三人行必有我師焉」¹⁶⁷san gin hing pi yeou ngo ssee yen “彼ら二人と行くたび”と孔子は言った、“いつも私に教えてくれる人が現れる”と。「無入而不自得焉」¹⁶⁸ “中に入る者は誰でも常に満足し、常に得る”。「苟不至徳至道不疑焉」¹⁶⁹ “最高の教えが栄えるために、ここで最高の徳が必要だ”。

第二に、優雅さのために何回も繰り返されるが、その時、句は互いに同等でなければならない。「四時行焉萬物生焉」¹⁷⁰sse(sic) che hing yen van oue seng yen “時は過ぎ、すべてがしかるべき時に生まれる”。「星辰繫焉萬物覆焉」¹⁷¹sing chin hi yen, van oue feou yen “すべての星はその中で配され、すべてのものは包み込まれる”。

第三に、韻律と快さのためにも利用される。例えば「下焉者」と「上焉者」¹⁷² “上位にいる人々”、“下位にいる人々”。あなたが「上者」「下者」「上位者’、“下位者”と言うよりも、言葉がずっとよく響く。「未知焉得仁」¹⁷³ouei tchi yen te gin “彼が仁愛を持っているかどうか私は知らない”。「未知得仁與否」ouei tchi te gin yu feou もまさに同じ意味であるが、言葉にしまりががない。「猶有感焉者」¹⁷⁴yeou yeou hoe yen tche “このことについてまだ疑っている人々がないわけではない”。

第四に、ほとんど同じ音を持つ音節の後ろに[「焉」を]組み合わせることを、最高の文筆家たちがみな求めている。例えば「有聖人之言焉」¹⁷⁵yeou ching gin tchi yen yen “この本は聖人の言葉を含んでいる”。「道不傳焉」¹⁷⁶tao pou tchoüan yen “真の教えの伝統は廃れてしまっている”。

第五に、疑問を示す時は直ちに文頭に置かれねばならない。例えば「焉知」yen tchi “誰が知っているのか?”、“私が何を知っているというのか?”「焉得剛」¹⁷⁷yen te kang “これが強い魂

¹⁶⁵ 『孟子』滕文公上。英訳本は「弃」を「棄」に作る。

¹⁶⁶ 『大学』七章。

¹⁶⁷ 『論語』述而。

¹⁶⁸ 『中庸』十四章。英訳本は「彼は常に自らの職業を維持している」と訳す。

¹⁶⁹ 『中庸』二十七章。なお引用文中の「疑」は本文は「凝」である。

¹⁷⁰ 『論語』陽貨。

¹⁷¹ 『中庸』二十六章。

¹⁷² ともに『中庸』二十九章。

¹⁷³ 『論語』公冶長。

¹⁷⁴ 欧陽修「易或問三首」。

¹⁷⁵ 欧陽修「易或問三首」。英訳本は「それは哲学者の言葉を含んでいる」と訳す。

¹⁷⁶ 『朱子語類』卷第八十五「竟無傳焉」か。

¹⁷⁷ 『論語』公冶長。

であるということなのか？”「焉得謂之剛手」というのはよいように思えるが、しかしこのように「言うのは言い方という点ですと大きな問題がある」。「焉用殺」¹⁷⁸yen yong cha “何のためにかくも多くの処刑[をするのか]？”「焉其從之」¹⁷⁹“彼に直ちに従わねばならないのか？”「夫焉有所倚」¹⁸⁰fou yen yeou so y “どうして男子がそんな滅びるべきものにすがることなのか？”「焉能為有。焉能為亡」¹⁸¹yen neng ouei yeou, yen neng ouei vang? “何かあるのか、あるいはないのか”または“それは持っているのか、失っているのか”または“それは生きているのか、死んでいるのか”。意味が決定されるためには、話されているものごとについて理解しなければならない。

第六に、小詞「如」jû “むしろ～”、“～よりも”によく対応する。「如丘者焉」¹⁸²ju kieou tche yen “私のように”。[この語は]孔子が言っているのである。「君子之過如日月之食焉」¹⁸³kiun tsee tchi kouou ju ge yue tchi che yen “賢者の過失はちょうど日食や月食のようなものだ”。「於地如於天焉」¹⁸⁴“天におけるように地にも”。

第七に、副詞[としての用法]を注記する。「忽焉」¹⁸⁵vou yen “突然”。「欣欣焉」¹⁸⁶“大きな喜びをもって”。Tchoang-tsee<莊子>は言う、「少焉」¹⁸⁷chao yen “少し後になって”と。このとき「焉」は[副詞を形成するため別の字に]後続する「然」と全く同じである。

2. 「然」 gen について

第一に、副詞[の機能]がよく注記される。「喟然曰」¹⁸⁸ouei(sic) gen yue “彼は嘆息して言う”。「循循然」¹⁸⁹sun sun gen “順序と方法をもって”。[こうした]例は至る所で現れる。

第二に、認容することを示す。「然乎否乎」gen hou feou hou “そうなのか、そうでないのか？”

¹⁷⁸ 『論語』顔淵。英訳本は「なぜ刑を科すのか」と訳す。

¹⁷⁹ 『論語』雍也。ここにローマ字標音はない。

¹⁸⁰ 『中庸』三十二章。英訳本は「なぜそんな男を信頼できるのか？」と訳す。

¹⁸¹ 『論語』子張。

¹⁸² 『論語』公冶長。

¹⁸³ 『論語』子張。

¹⁸⁴ 「主禱文」。キリスト教で唱える代表的な祈禱文。「爾旨承行於地，如於天焉」現代日本語訳（カトリック）では、該当部分は「(主のみこころが) 天に行われるとおりに地にも行われますように」と訳す。なおここにローマ字標音はない。

¹⁸⁵ 『論語』子罕など。

¹⁸⁶ 『孟子』梁恵王下。ここにローマ字標音はない。

¹⁸⁷ 『莊子』達生など。

¹⁸⁸ 『論語』先進など。原文は「喟然嘆曰」とする。「喟」は現代中国語で kui と読むが本文は ouei、英訳本も wei とゼロ声母に読む。

¹⁸⁹ 『論語』子罕。

「子之言然」 tsee tchi yen gen “君の言うそのとおりで”。「不其然乎」¹⁹⁰pou ki gen hou “そのようではないのか?” 「何必然」¹⁹¹ho pi gen “何がそのようでなければならないのか?” 「未必然」 ouei pi gen “私はそのようであるのかどうか疑っている”。「然而未仁」¹⁹²gen ell ouei gin “確かにその通りだが、しかし仁愛では決してない”。「殆不然矣」¹⁹³tai pou gen y “決してそのようではない”。「然亦有之」 “だがしかし、ここに一つあるのだ”。「然則不足學乎」¹⁹⁴ “私は徳の学習を続けるが、君はあたかも無用とばかりに放棄するというのか?” 「然則將奈何」¹⁹⁵gen tse tsiang nai ho “そこで私は何をしよう?” “私は私をどのように変えようか?” Mong-tsee<孟子>と Tchouang-tsee<荘子>には「既然」 “本当にそのようである時” が現れる。そして「雖然」 soui gen “そのようではあるが” [も現れる]。

第3に、「知此然後知&c.」¹⁹⁶“そしてこのことが知られると直ちに次いで～が知られる”。「古之人皆然」¹⁹⁷kou tchi gin kiai gen “すべての古人はそのように考えていた”。「惟君子不然」¹⁹⁸“賢者はそのようではない”。「亦然」 “そのように”。「所當然」¹⁹⁹so tang gen あるいは「當然之則」²⁰⁰“ものごとの本質”、“存在を欠かすことのない道理”。「所以然」²⁰¹so y gen “～である理由”あるいは“～のゆえに”。「自然」 “おのずとそのように”。「自然而然」²⁰²“快く、何の無理な力なしに”。

第十一節 小詞「則」 tse と「且」 tsie について

1. 「則」 tse について

Tchong-yong<中庸>は言う、「言而世為天下則」²⁰³yen ell chi ouei tien hia tse “彼がこの言葉を言

¹⁹⁰ 『論語』 泰伯。

¹⁹¹ 『荀子』 性悪。

¹⁹² 『論語』 子張。

¹⁹³ 欧陽修『詩本義』 卷十五「周召分聖賢解」。

¹⁹⁴ 欧陽修「易或問三首」。英訳本は「ならば君は学習に満足しているというのか?」と訳す。

¹⁹⁵ 『墨子』 尚賢上。なお本文は「然則衆賢之術將奈何」であり、引用は下線部を欠く。

¹⁹⁶ 欧陽修「易或問三首」。なおここにローマ字標音はない。

¹⁹⁷ 『論語』 憲問。

¹⁹⁸ おそらく欧陽修「朋党論」。文中の「惟君子則有之」と「君子則不然」が混同されたか。なおここにローマ字標音はない。

¹⁹⁹ 『朱子語類』 卷第十七など。

²⁰⁰ 『朱子語類』 卷第十四など。なおここにローマ字標音はない。

²⁰¹ 『朱子語類』 卷第五など。

²⁰² ここにローマ字標音はない。典拠は複数考えられるがこの直前に『朱子語類』からの引用と思われるフレーズが続くことから『朱子語類』 卷第二を挙げておく。なお英訳本は「自発的に、だが真に」と訳す。

²⁰³ 『中庸』 二十九章。

えば、それは全世界が常に従う規範となる”と。Chi-king<詩経>は言う、「有物有則」²⁰⁴yeou oue yeou tse “その本質に自らの物理を持っているものはみな「物」oue と呼ばれ、かかる本質の動因を成す基本的な形而上の何かを持つものはみな「則」tse と呼ばれる”と。[「則」は]「理」li と同じである。[また]「当然」tang gen と同じである²⁰⁵。しかし、私は小詞としての「則」について述べる。

第一に、我々の“ゆえに”、“従って”などのように結論を表す。あるいは少なくとも[話から]展開してきたものを表す。例えば「修身則道立」²⁰⁶sieou chin tse tao li “人格が磨かれると、続いて道理が確立する”。即ち、“もしその人格の修養を怠れば道理は振るわない”。「水之性不雜則清莫動則平」²⁰⁷ “水の性質は以下のものである。[つまり]もし何も混ざらなければ透明で澄んでいる。もし誰もそれを動かさなければ鏡のように滑らかだ”。この意味においては[「則」の代わりに]「斯」ssee が見いだされる。Mong-tsee<孟子>は言う、「經正則庶民興。庶民興斯無邪慝矣」²⁰⁸king tching tse chu min hing, chu min hing sse vou sie te y “もし諸法が正しければ人々は徳に向かって魂を高め、そこで人々が徳へ魂を向ければ、すべてのうち続く悪徳から逃れられる”と。「何如斯可以從政矣」²⁰⁹ “人々が永続する諸法に従うようにするために、何をすべきなのか?” [「斯可以」の代わりに]「則可以」を置いても同じ[意味]になるだろう。[さらに]あなたは[「則」と]同じ意味の「此」を見いだすだろう。つまり「有徳此有人」²¹⁰yeou te tsee yeou gin “王が真の徳を持てば、人々の心を永遠に所有することになるだろう”。

第二に、「則」は「而」ell よりもいくらか強い接続詞である。孔子について「哭則不歌」²¹¹kou tse pou ko “彼は泣きながら歌わない”、“大声と無情さがなければ涙を流す”と言われている。あなたは反論することがあるたび「然」の後ろに[「則」を]置くことになっている。つまり「～、然則」“しかしこのようであるから、～となるように”。以下の文を注記せよ。「美則美矣。而未大也」²¹² “これは確かに善く美しいが、決して最高の段階にはない”。[他の文も]同様に解しうる。

第三に、「一則」は二回使われて、我々の「ある時は～、ある時は～」に対応する。「父母之

²⁰⁴ 『詩経』大雅。英訳本は「物質的な存在と非物質的な原則とがある」と訳す。

²⁰⁵ 英訳本ではここに「このように使われる「則」の例は『中庸』と『詩経』に見える」という一文が加わる。

²⁰⁶ 『中庸』二十章。英訳本は「精神を修養した人は健全だ」と訳す。

²⁰⁷ 『莊子』刻意。なおここにローマ字標音はない。

²⁰⁸ 『孟子』尽心下。

²⁰⁹ 『論語』堯曰。なおここにローマ字標音はない。

²¹⁰ 『大学』十章。

²¹¹ 『論語』述而。英訳本は「彼はいつも泣き言を言いながら泣く」と訳す。

²¹² 『莊子』天道。英訳本は「而」を「則」に作る。

年不可不知也一則以喜一則以懼」²¹³fou mou tchi nien pou ko pou tchi ye, y tse y hi, y tse y kiu “両親の年齢について常に知っていなければならない。ある時は我々が[両親の長寿を]喜ぶために、またある時は我々が[両親の高齢を]畏れるために”。

2. 「且」tsieについて

第一に、時々「則」tseと同じ[意味]である。例えば「然且仁者不為況&c.」²¹⁴ “この点で、徳を持つ者はみなこのようなことをせず、むしろ～”。「然且」は一般に「然則」と同じであるが、そう明証するだけの他の例証に欠けるので、私はそれが[「然則」よりも]稀であるということを書いておく。

第二に、「且」は「而」ellや「與」yuのような繫辞の小詞である²¹⁵。しかし、以下の点で異なっている。「而」ellは常に逆の[意味の]語を要求する。例えば「貧而樂」²¹⁶pin ell lo “彼は貧しいが豊かである”、「富而禮」²¹⁷fou ell li “彼は富んでいるが礼儀正しい”のように。「與」yuは逆意の語も結果も含まない。「予與爾」²¹⁸yu yu ell “私と君”。しかし「且」は「則」のように結果を含意する。例えば「貧且賤」²¹⁹pin tsie tsien “彼は貧しく、それゆえに賤しい”、“貧困から種々の誘惑が生じる”、「富且貴」²²⁰fou tsie kouei “彼は富んでいて名誉がある”のように。

第三に、Ngheou-yang tsee<歐陽子>は言う、「嗚呼余且老方買田」²²¹ou hou yu tsie lao, fang mai tien “私はすでに老いたので、畑を買おうと考えている”と。「余且老」は「余老」yu lao というのと同じである。「且」は多くのものの中に置かれるが、それは「余老」は「吾老」²²²のように“私の老人”を意味することがあるからである。中国語[文法]についての注記はこうした、あるいは似たような[機能]語の組み合わせ[より成る]。

第四に、Sing-li-ta-tsuen<性理大全>においては「即」tsieと「便」pienが「則」tsěと「且」tsieと同様に現れるが、これはより俗な文体において多く起こるものである。

²¹³ 『論語』里仁。

²¹⁴ 『孟子』告子。なおここにローマ字標音はない。

²¹⁵ ラテン語で *particula copulativa* (繫辞の小詞) だが、英訳本では「接続詞 (conjunctive particle)」と訳す。

²¹⁶ 『論語』学而。

²¹⁷ 『論語』学而。

²¹⁸ 『論語』陽貨。

²¹⁹ 『論語』泰伯。

²²⁰ 『論語』述而。

²²¹ 歐陽修「内製集序」。本文中の「余」は原文では「予」に作る。また原文では「老」の後ろに「矣」がある。

²²² 英訳本は「五老」に作る。

第十二節 小詞「若」jo と「如」ju について

第一に、どちらも仮定の小詞“もし”と対応する。「若然則&c.」²²³jo gen tse, &c. “もしそうならば、それゆえに～”。ヨーロッパの人々は自らの生まれ持つ言語には従わず、また不安に逆らうよう注意されたい。もし事実に正しく従おうとするならば、中国語の「若」jo と「若是」jǒ ché を、外国人[の母語の用法]に合わせて用いることのないよう注意することを私は求めたい。従って、私はヨーロッパ人が中国人と[交わることで]その「若」jǒ を正しく省略するのに慣れるよう促したいのである。ヨーロッパ人は「若是如今有人在這裡」「もしここに今誰かがいれば」などと言ってはならない。なぜならこれは粗野な言い方となりうるからだが、「今且有人於此」²²⁴kin tsie yeou gin yu tsee または「設有人於此&c.」と書くのと同様に、概して[同じように]話す。Mong-tsee<孟子>はしばしば「苟」keou “もし～なら”を使う。「儻」あるいは同義の「倘」tang “もし～なら”を置くこともできる。しばしば「使」ssee “～ようにさせる”も見える。「設」che も同義だが優雅さに欠ける。例えば「使性果善耶身不可以不修。使性果惡耶身不可以不修」²²⁵ssee sing ko chen ye, chin pou ko y pou sieou, ssee sing ko ngo ye, chin pou ko y pou sieou “もし性質あるいは天性が善いものであるならば、我々は自身の完成にもっと努め続ける。もし逆に悪いものであるならば、我々はもっと徳を働かせねばならない”。つまり、もし善いものならば悪くなることのないよう努めねばならず、もし悪いのであれば善い方へ発展するように磨かねばならない。Ngheou-yang-sieou<歐陽修>はそのように[言う]。

第二に、どちらも“～のように”を意味する。例えば「有若無」²²⁶yeou jo vou “持っていないかのように有する”。Sun-tsee<荀子>は言う、「惡之若鬼」²²⁷ou tchi jo kouei “彼は彼を悪魔のように嫌っている”と。「若是」または「如此」は“このようである”[を意味する]。以下[の文]を注記せよ。「如之何其可及也」²²⁸ju tchi ho ki ko ki ye “誰がこのような徳に達することができるだろうか？”ここでは話題となっている孔子が「其」k'i で示されている。「如之何則可也」²²⁹ju tchi ho tse ko ye “そのようであれば、何が必要だということのか？”この二つめの[例文における]「如之」は“もしそうであるならば”と動詞に[解する]。Ho「何」は“どうやって”または“私は何をしよう？”である。「則可」tse k'o は“ひきつづき適するために”。ヨーロッパ人だけが粗野に

²²³ 王禹偁「待漏院記」。

²²⁴ 『莊子』讓王。

²²⁵ 歐陽修「答李詡第二書」。原文は本文の「耶」を「邪」に作る。またプレマールは原文では「不可以不修」の後にある「人不可以不治」を省略している。

²²⁶ 『論語』泰伯。

²²⁷ 『荀子』王霸。本文中の「若」は原文では「如」である。

²²⁸ 『論語』子張。

²²⁹ 『孟子』梁惠王下。

も「若是如此」「もしこれがそのようなら」と言うのだ。

第三に、「莫若」と「不如」がよく見られ、“その方が可能性が高く、より良い”ことを表す。例えば「莫若修其本」²³⁰mo jo sieou ki pen“根本を癒し修めるよりよいことはない”。「知之者不如好之者。好之者不如樂之者」²³¹“善を知ることはそれを愛することには及ばず、それを愛することはそれを楽しむことに及ばない”。愛なき知は不毛であり、楽しみのない愛は長続きせず、さして美しくもない。

第四に、「若」jo は時に“～について言えば”を意味する。例えば「若民則&c.」²³²“民を観察すると、まさに～だ”。そして「如」ju も同様に用いられる。「如其禮樂以俟君子」²³³ju ki li yo, y ssee kiun tsee “そして儀礼と音楽について言えば、[それは]聖人を待つのに使うものだ”。ここで「君子」は賢者を意味することはない。なぜなら、儀礼と音楽は聖人のみに関わるものだからだ。

第五に、「如」ju は副詞となるか、さらなる意味を増した形容詞であり、様相を表す。例は無数にあり、Y-king<易経>と Lun-yu<論語>には極めて多い。「空空如也」²³⁴kong kong ju ye“無人で空である”。「恂恂如也」²³⁵“実直で誠実である”。「與與如也」²³⁶yu yu ju ye“極めて重々しく”。「休休如也」hieou hieou ju ye “威厳をもって”など。

第十三節 「亦」y、「以」y、「為」ouei について

「亦」について特別に言うべきことは何もなく、[ラテン語で]“～も”を、フランス語で“～も”を意味する。そこで[残る二つについて]あなたがその本質を悟るように十分な例を提供しよう。

1. 「以」y について

第一に、ラテン語の小詞“～のように”、“～ため”、フランス語の“～ため”に対応する。例えば「君子居易^o以俟命」²³⁷kiun tsee kiu y, y ssee ming“賢者は命令を待つべく、平坦で豊かな道

²³⁰ 欧陽修「本論」。

²³¹ 『論語』雍也。ここにローマ字標音はない。

²³² 『孟子』梁惠王上。「&c.」で省略された部分には「無恒産」が入る。なおここにローマ字標音はない。

²³³ 『論語』先進。

²³⁴ 『論語』子罕。

²³⁵ ここにローマ字標音はない。

²³⁶ 『論語』郷党。

²³⁷ 『中庸』十四章。英訳本は「賢者は運命の命ずるところに対し備えができています」と訳す。

にいる”。「齊莊中正足以有敬也」²³⁸tsi tchouang tchong tching tsou y yeou king ye “威嚴と正直はすべての人が彼を崇め尊ぶのに十分である”。「聞一以知十」²³⁹vén y, y tchī chē“彼は一つのことを聞いて、そこから十のことを知る”。

第二に、「以」はよく“ある人を使う”、“何かを使う”の「用」yongで説明できる。例えば「毋吾以也」²⁴⁰vou ngou y ye“彼は私を使わない”。「雖不吾以」²⁴¹soui pou ngou y“彼が私を使わなくとも”、“私を～しなくとも”。「吾以」は必要な倒置であることに注意せよ。なぜなら、もしあなたが「以吾」と[語を]並べれば、「私によって」を意味し、[意図するところと]意味が同じではなくなってしまうからだ。「怨乎不以」²⁴²yuen hou pou y “指導者に登用されないことに、彼は激昂している”。この例において「以」は動詞つまり「活字」ho tseeであり、「虚字」hiu tsee つまり分詞ではない。次[の例]では分詞として[「以」が]現れる。「祀其先以天子之禮」²⁴³ssee ki sien y tien tsee tchi li“死んだ両親を皇帝専用の儀礼で祀る”。「葬以大夫祭以士」²⁴⁴tsang y ta fou, tsi y ssee “重要人物として葬られ、次いで単なる文人として祀られる”。Ngheou-yang-sieou<歐陽修>は言う、「以堯舜之明猶以是為懼況其下者哉」²⁴⁵y yao chun tchi ming yeou y che ouei kiu, hoang[sic] ki hia tche tsai“Yao<堯>と Chun<舜>すらこの恐れを抱いていた[とこのだから]、彼らの徳に及ばない人々はどれだけ恐れねばならないことか!”と。

第三に、よく「所」sòと結合する。例えば「所以然」so y gen “～という原因で”、“～のゆえに”。「視其所以」²⁴⁶chi ki so y “彼が振る舞うところを見る”、“彼の喜ぶところを見る”。ここで「以」は動詞であり、「所」soがその目的語であることが分かる。「郊社之禮所以事上帝」²⁴⁷ “Kiao-che<郊社>と呼ばれる儀礼によって至高の神が祭られる”。「知所以治人」²⁴⁸tchi so y tchi gin “どのように人々が治められるのかを知る”、“何によって人々が治められるのかを知る”。「所以行之者一也」²⁴⁹so y hing tchi tche y ye“これを行動に移すことは、一つ[のやり方があるの

²³⁸ 『中庸』三十一章。

²³⁹ 『論語』公冶長。

²⁴⁰ 『論語』先進。

²⁴¹ 『論語』子路。

²⁴² 『論語』微子。

²⁴³ 『中庸』十八章。ただし原文は「上祀先公以天子之禮」である。

²⁴⁴ 『中庸』十八章。

²⁴⁵ 欧陽修「送秘書丞宋君婦太学序」。原文は「堯舜」ではなく「舜禹」。また「為」の後ろに「相戒」の二字が入る。

²⁴⁶ 『論語』為政。

²⁴⁷ 『中庸』十九章。なおここにローマ字標音はない。

²⁴⁸ 『中庸』二十六章。

²⁴⁹ 『中庸』二十章。

み]である”。「此天地之所以為大」²⁵⁰ “これこそが、天と地が大きい理由なのである” 「天之所以為天也」²⁵¹ “天は天によって、天が天であるようにあらしめている”。「所以」あるいは「是以」は“そのために”、“そのゆえに”[を意味する]。

第四に、「何」ho と結びついて“どうやって”を意味する。Tchoang-tsee<莊子>は言う、「何以知其然耶」²⁵²“これがそうであると私はどこから知るのであろうか”、“これがそうであると私はどのように知るのであろうか”と。「思知人不可以知天」²⁵³“人間を知ろうとする者は、この知識なしに天の知識に達することはできない”。もし「不可不知天」と言えば意味は強まる。「その意味は「天を知らないわけにはいかない」[である]。「この文は」ちょうど知ることと知らないことを組み合わせてできているのだ。

第五に、「為」ouéi と結びつけられ、さまざまな言い方を持つ。「不以為恥」²⁵⁴pou y ouei tchi“彼はこれを恥づかしいことと思わない”、“これについて彼は赤面することを知らない”。「不知高明以為如何」²⁵⁵“あなたがこれについて感じることを私は知りたい”。「高明」“高尚で知的である”。我々はこのように他人に対し礼儀正しく返答を求めよう。「吾以子為鬼」²⁵⁶ngou y tsee ouei kouei“私はあなたを見つけた時、あなたを幻だと思った”、“私には幽霊と思われた”。「則王以為孰勝」²⁵⁷tse vang y ouei chou ching“王様、あなたの判断では誰が勝利を得るでしょうか”。「不以為樂」²⁵⁸pou y ouei lo“彼はそれすら楽しまない”。「民以為大」“民には十分に思えた(庭園が)”²⁵⁹。「明君以制産為急也」²⁶⁰ming kiun y tchi tchan ouei ki ye“賢い王はすべての[事業よりも]先に人々を養育することを考える”。

第六に、「以」y は小詞“～の次に”、“次いで～”に対応する。「使民以時」²⁶¹ssee min y che“時機に従って人々を支配する”つまり“適した都合の良い時でなければ徴発しない”。他の例は随所

²⁵⁰ 『中庸』三十章。ここにローマ字標音はない。

²⁵¹ 『中庸』二十六章。なおここにローマ字標音はない。

²⁵² 『莊子』胠篋。原文は最後の「耶」を「邪」に作る。なおここにローマ字標音はない。

²⁵³ 『中庸』二十章。ここにローマ字標音はない。なお英訳本は「我々は人を知らずに、また天を知らずにいられようか？」と訳す。

²⁵⁴ 『朱子語類』卷第一百二十六。

²⁵⁵ 歐陽修「与梅聖俞四十六通」十五。原文は「未知高明自以為如何也」である。ここにローマ字標音はない。

²⁵⁶ 『莊子』達生。

²⁵⁷ 『孟子』梁惠王上。

²⁵⁸ 『孝経』喪親・正義

²⁵⁹ 『孟子』梁惠王下。ここにローマ字標音はない。また、「庭園が」というのは、恵王が拡張しようとしている庭園について人々がもうすでに十分に大きいではないかと思っているという文脈を説明している。

²⁶⁰ 『日講四書解義』卷十三。

²⁶¹ 『論語』学而。

に出る。[「以」は]同様に²⁶²前置詞“～で”に対応する。「剥牀以足」²⁶³po tchoüang y tsou“寢床を足で壊す”。あなたは多くのこうした例を Y-king<易経>に見いだすだろう。

第七に、「無以」あるいは「無己」を加える。例えば「無己則有一焉」²⁶⁴vou y tse yeou y yen“もしあなたが私の感じることを本当に知りたいならば、もちろん私は言おう、つまり一つのことがある、それは～”。二文字「無以」あるいは「無己」の意味を正確に説明するのにどれだけの言葉が必要なことであろうか！同様に「自漢以來」「己來」「而來」「而降」つまり“漢王朝の時代から今まで”。同じく「無以加矣」²⁶⁵vou y kia y“君がなお加えるべきものは何もない”。「殺人以梃與刃有以異乎」²⁶⁶cha gin y ting yü gin yeou y hou“君が杖で殺すのと剣で殺すのと何か違いはあるか？”その答え：「無以異也」「全くない」、“どちらにも違いはない”。

2. 「為」について

第一に、「為」ouei はよく「能」neng と結びつくが、「能」“できる”単体[での用法]よりもさらに言うべきことがある、というようには思われぬ。「惟天下至誠為能化」²⁶⁷ouei tien hia tchi tching ouei neng hoa“全世界において、最高の真実と聖性を持つ者のみが[人々の]心を変えられる”。「惟明王為能愛所愛」²⁶⁸ouei ming vang ouei neng ngai so ngai“賢王のみが彼の愛するものを愛することを知っている”。「惟士為能」²⁶⁹ouei ssee ouei neng“ただ賢者のみがそれをする事ができる”。[以上の例から]「惟」ouei が常に先行していることがわかるだろう。「為能」は“能力がある”ことを意味する。しかし「為」一字のみが「者」tchè や「之」tchi なしに小詞を[「能」以外のものに]取り替えられるのかどうか、私には大いに疑わしく思われる²⁷⁰。

第二に「為」は俗に“～のため”を意味する。例えば「非夫人為慟而誰為」²⁷¹“もしこの人のために悲しむのでなければ他の誰のためなのか！”ここで孔子はある弟子の死[に]遭っている。[ここでは]二箇所語順転倒に注意せよ。「夫人為」と「誰為！」である。後者は必須のものだ。な

²⁶² 英訳本はここに「ラテン語の」という句が加わる。

²⁶³ 『易経』剥。

²⁶⁴ 『孟子』梁惠王下。

²⁶⁵ 『史記』呉太白世家。

²⁶⁶ 『孟子』梁惠王上。次の「無以異也」も同じ箇所からの引用である。

²⁶⁷ 『中庸』二十二章。

²⁶⁸ 『荀子』君道。なお原文は「惟明主為能愛其所愛」であり、下線部が引用と異なる。また英訳本では「賢王は影響力の正しい使い方を知っている」と訳す。

²⁶⁹ 『孟子』梁惠王上。

²⁷⁰ つまり「為能」が可能ならば「能」以外の虚詞に取り替えて「為+〇」のような語形も可能かといえば、そうではないとプレマールは言いたいのである。そしてその例外として「為〇之～」「為〇者」のような形を考えている。

²⁷¹ 『論語』先進。原文では「非夫人之為慟」と「之」が入る。またここにローマ字標音はない。

ぜならば、「為誰」と言えば「あの人は誰だ？」を意味しうるからだ。「學為己」²⁷² *hio ouei ki* “自らの力で学ぶ”、“自らのために学ぶ”。「學為人」“他人のために学ぶ”。「為何」*ouei ho* “何によって”、“どんなものによって?”。「何為」*ho ouei* “何がそのようであるのか?”

第三に、「為」が小詞ではない時については[以下の]項目を通じて熟考せよ²⁷³。1. 実動詞を示す。「其為人也多才多能」²⁷⁴ *ki ouei gin ye to tsai to neng* “その人は極めて豊かな天賦の才がある”。2. “する”²⁷⁵を意味する。「吾不徒行以為之棹」²⁷⁶ *ngou pou tou hing y ouei tchi ko* “私は行って彼のために棹を作るのではない”。[これは]孔子の語である。3. “行う”、“命令する”、“実行する”を意味する。「為国」*ouei kouo* “王国を統治する”。「為圃」*ouei pou* “庭を手入れする”、フランス語で“庭をいじる”。4. しばしば中国人は「不為」“やらない”と言わねばならない時に「不能」*pou neng* “できない”という。それは事実として不可能なことが生じた[かのようだが]、実はその気がないのだ。Mong-tsee<孟子>の例を見れば明らかである²⁷⁷。もし言ったことがなされねばならぬことならば「不為」*pou ouei* は罪悪であるが、もしなしてはならぬことならば「不為」は美德である。

第十四節 「哉」*tsai* と「乃」*nai* について

第一に、「哉」*tsai* について²⁷⁸。1. 以下のように、非常にしばしば疑問を表す。2. 驚きと感歎[を表す]。選ばれた例を見られたい。「洋洋乎盈耳哉」²⁷⁹ *yang yang hou yng ell tsai* “その音楽はすばらしく、何と喜ばしく耳を満足させてくれることか!” “乎”はここで「哉」と同じ[意味]であるが、それゆえ……と扱われる²⁸⁰。というのは、[文の]最後に「哉」が来てさらに[別の何か]置かれるということは少なく、疑問[を表す]とは全く解釈できないからだ。「庶乎哉」²⁸¹ *chu hou tsai* “何という多くの人々か!” この三字は“まことに近い”ことをも意味する。話の内容から意味を考えねばならない。3. 別の名詞の後ろに優雅に置かれる。次いで最後に他の分詞が付くことも

²⁷² 次の「學為人」と合わせて『論語』憲問の「古之學者為己、今之學者為人」による。なお英訳本は「己」を「已」に作る。

²⁷³ 英訳本では「為」が小詞ではない場合、時に実動詞として使われる」と訳し、以下箇条書きを使わず例文を挙げていく。

²⁷⁴ 「其為人也多才與藝人」の形であれば韓愈「原毀」に見える。

²⁷⁵ 英訳本では他に「作る」という語釈も加わる。

²⁷⁶ 『論語』先進。原文は「棹」ではなく「槲」である。英訳本も「槲」。

²⁷⁷ 『孟子』梁惠王上「不為者與不能者之形何以異。曰、挾泰山以超北海、語人曰我不能、是誠不能也。為長者折枝、語人曰不能、是不為也、非不能也」を踏まえる。

²⁷⁸ 英訳本では以下1.2.のように番号を振らずに訳出する。

²⁷⁹ 『論語』泰伯。

²⁸⁰ 本文は *sed ideo ... adhibetur*。どう扱われるのかは本文でも“...”で示されるため不明。英訳本でも同様。

²⁸¹ 陳諫「心印銘序」。

あれば、付かないこともある。「大哉問」²⁸²ta tsai ven“彼の質問は何と大きいことか!”「富哉言乎」²⁸³fou tsai yen hou“言葉の何と豊かであることか!”「善哉言也」²⁸⁴chen tsai yen ye“この言葉は何と健全であることか!”「賢哉回也」²⁸⁵hien tsai hoei ye“Hoei<[顔]回>は何と賢いのか!”「野哉由也」²⁸⁶ye tsai yeou ye“Yeou<[仲]由>は何と粗暴なのか!”「大哉聖人之道」²⁸⁷ta tsai ching gin tchi tao“おお! 聖人の道は何と偉大なのか!”「甚哉其惑也」²⁸⁸chin tsai ki hoe ye“この混沌の何とひどいことか!”「其」という字が誤った人々を指すならば「惑」は動詞となり、「其」が陥っているところの誤りを意味するならば「惑」は名詞となり、よくあるように[意味の上から動詞が補われる]。「何其繆哉」²⁸⁹ho ki mieou tsai“何と彼は無様に誤っていることか”。「何」という字はここでは疑問を全く表さない。

第二に、「乃」naiは以下の意味である²⁹⁰。1.“すなわち”[を意味する]。Tchouang-tsee<莊子>は言う、「善吾生乃所以善吾死也」chen ngou seng nai so y chen ngou ssee ye“私がよく生きれば、すなわちよく死ぬだろう”と。「善」は動詞“良くする”である。「使徒信条」においては「死而乃瘞」²⁹¹ssee ell nai y “[イエスは]死んで葬られた”[という文に現れる]。ここで、フレーズを支えるためなぜこの「乃」があるのか説明するのは難しい。2.Chu-king<書経>では「乃」が4回繰り返される。「乃聖乃神乃文乃武」²⁹²nai ching, nai chin, nai ven, nai vou.これは同時に神聖であり、精霊であり、平和であり、勇敢であるものについて述べている。3.同書では二人称にnai<乃>がある。「度乃心」²⁹³tou nai sin “汝の心を吟味する”。「乃父乃祖」²⁹⁴nai fou nai tsou “汝らの祖先”。

第十五節 時を表す小詞について

1.第一に「將」は未来を表す。例えば「後世之為惡者將曰」²⁹⁵heou chi tchi ouei ngo tche tsiang

²⁸² 『論語』八佾。

²⁸³ 『論語』顔淵。

²⁸⁴ 『孟子』梁惠王下。原文は「也」ではなく「乎」である。

²⁸⁵ 『論語』雍也。

²⁸⁶ 『論語』子路。

²⁸⁷ 『中庸』二十七章。

²⁸⁸ 欧陽修「春秋論」上。

²⁸⁹ 陳徳璋「北山移文」。

²⁹⁰ 以下、英訳本では箇条書きを使わずに訳出する。

²⁹¹ 「使徒信条」。現代日本語訳では「(イエスは十字架につけられて)死に、葬られ」とする。

²⁹² 『書経』大禹謨。英訳本は「彼は同時に神聖であり、精霊であり、文官であり、戦士である」と訳す。

²⁹³ 「迂乃心」ならば『書経』盤庚にみえる。

²⁹⁴ 「乃祖乃父」ならば『書経』盤庚など。

²⁹⁵ 欧陽修「魏梁解」。

yue “その時悪をなす者どもは～と言うだろう”。「將入門」²⁹⁶ “我々は門に入ろう”。「將終」あるいは「將死」 “死ぬだろう”。「將可出」 tsiang ko tchu “その時は出て行ってもよい”。「諾: 吾將問之」²⁹⁷ no ngou tsiang ven tchi “私は自らそのことを尋ねよう”。「諾: 吾將仕矣」²⁹⁸ no, ngou tsiang ssee y “私はすぐマンダリンになろう”。「不知老之將至」²⁹⁹ pou tchi lao tchi tsiang tchi “老いがまもなく襲ってくることに誰も気づかない”。「可知其將無所不至焉」³⁰⁰ ko tchi ki tsiang vou so pou tchi yen “彼が達しないところはないということが分かるだろう”。

第二に、「曾」は過去を表す。「曾由與求之間」³⁰¹ “君はわが弟子 Yeou<[仲]由>と Kieou<[冉]求>について尋ねた”。「曾説」 tseng choue “私はすでに言った”。註解者である T chang-kin (sic)-tching<張居正>³⁰²は俗語を使って以下のように説明する。「已曾説過了」³⁰³ y tseng choue ko leao と。[この例文において]「説」という字は“言う”を意味し、他の四字は過去時制であることを示している。「未曾言及了」 ouei tseng yen ki leao “私は今まで言っていなかった”。「經」 king は「曾」 tseng に同じである。従って「不經見」 “私は見なかった” は「不曾見」 pou tseng kien、そして俗語「沒有見過」 mo yeou kien kouo と同じである。

第三に、「已」も過去を示す。「形雖存而心已死」 hing soui tsun, ell sin y ssee “身体は今のところ生きていると言えるが、魂はすでに死んでいる”。「已死矣」 y ssee y “彼はもう死んだ”。「毛鄭於詩其亦已博矣」³⁰⁴ mao tchin(sic) yu chi k'î y y po y “Mao-tchang<毛萇>と Tchin-yuen<鄭玄>は Chi-king<詩經>について該博な知識を持っていた”。「病之已甚」³⁰⁵ ping tchi y chin “彼はそれをはなはだ憎んでいた”。「病」は動詞、「之」はその目的語である。

<待続>

付記：本稿は平成 27 年度科学研究費補助金(基盤 C)「欧文資料 *Notitia Linguae Sinicae* による清代中国語研究」(課題番号 26370509)による研究成果の一部である。

²⁹⁶ 『論語』雍也。魯の勇士孟子反が城門に入るといふ原文の文意からすれば主語は「彼は」とすべきところである。ここにローマ字標音はない。

²⁹⁷ 『論語』述而。

²⁹⁸ 『論語』陽貨。

²⁹⁹ 『論語』述而。英訳本は主語を「彼」とする。

³⁰⁰ 欧陽修「送秘書丞宋君歸太學序」。原文は最後に「也」がある。

³⁰¹ 『論語』先進。なおここにローマ字標音はない。

³⁰² 張居正講義、来可泓編『論語直解』のこと。本文は Tchang-kin-tching と記し、u を n に誤る。英訳本もこれを踏襲して Chang-kin-ching と記すので誰のことか不明になってしまっている。

³⁰³ 英訳本では「已」を「己」に作る。

³⁰⁴ 欧陽修「詩譜補亡後序」。なお原文は「其」の後ろに「學」がある。

³⁰⁵ 『論語』泰伯。ただし原文は「病」を「疾」に作る。英訳本は「已」を「巳」に作る。